



令和8年4月30日
5月号 No.489
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

共に高め合う「学びの姿」を目指して

校長 西村 学徳

校庭の木々が鮮やかな若葉に包まれ、爽やかな風が吹く季節となりました。先日はご多用の中、全校保護者会に多くの方にご参会いただき、誠にありがとうございました。新年度がスタートして一か月。4月の「一年生を迎える会」では、上級生が心を込めて会の準備や運営を行う姿と、それに応える一年生の笑顔が見られ、学校全体が温かい絆でつながっていく様子に嬉しく思いました。



一年生を迎える会

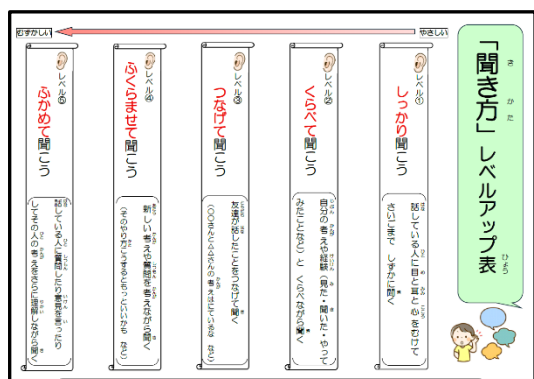
さて、今年度最初の全校朝会で、私は子供たちに「学ぶ」ことについて話をしました。「学ぶ」の語源は、一説には「まねぶ（真似ぶ）」であると言われています。考えてみると、私たちは、毎回、何もないところから知識を生み出すわけではありません。教科書の内容、九九や筆算の仕組み、iPadの使い方に至るまで、先人が積み上げてきた知恵や工夫、創造してきたことを「真似る」ことから学びは始まっています。

もちろん知識を得るだけであれば教科書等を使って自宅で学ぶことも可能です。しかし、「学校だからこそ学べること」、「学校で学ぶことの価値」があります。

それは、教室で友達と「あれでもない。これでもない。」と頭を悩ませながら意見を交わすこと。自分一人では思い付かなかった友達の素敵な考えに触れ、「なるほど!」と膝を打つこと。自分の考えを受け止め、認めてもらう中で自分の考えに自信をもつこと。人と関わり合いながら互いに力を高め合い、感化し合えることこそが、学校で学ぶことの最大のよさであり、他では代えがたい価値ではないかと思えます。

そして、こうした質の高い「学び合い」を実現するために大切なことは「聞く姿勢」の育成と考えています。学び合いの第一歩は、相手の考えを正しく理解することから始まります。

現在、各教室に「聞き方レベルアップ表」を掲示し、子供たちに具体的な目標を示しています。その中で、4月中に全員にできるようになってほしいと話したのが「レベル①：しっかり聞こう」です。ポイントは二つ、「話している人に目と耳と心を向ける」、「最後まで静かに聞く」です。相手の話を音として捉えるのではなく、相手の表情を見て、相手の思いを心で受け止める。この「心で聞く」習慣が定着して初めて、互いを尊重した深い対話が生まれます。また、誰もが安心して自分の思いを言葉にできるよう、自分の考えを伝えやすくするための「話型（話し方のモデル）」の指導も行っていきます。



「聞き方」レベルアップ表

子供たちが互いに良いところをまねし合い、高め合いながら日々成長していくことができる学校、そのような活気ある学びの風景が見られる学校づくりに今後も努めてまいります。

子供たちが互いに良いところをまねし合い、高め合いながら日々成長していくことができる学校、そのような活気ある学びの風景が見られる学校づくりに今後も努めてまいります。